

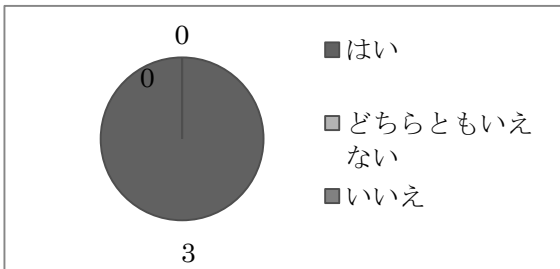
放課後等デイサービス自己評価 集計結果

平成29年11月11日

若者相談センター ワンダーポケット

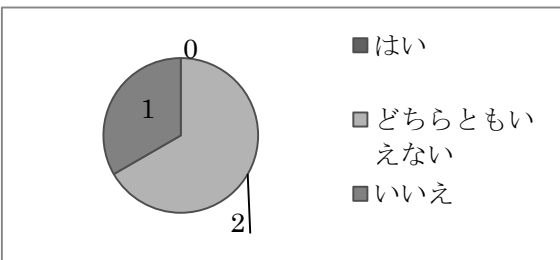
平成27年4月付で厚生労働省から通達があった「放課後等デイサービスガイドライン」に則り、職員による自己評価と話し合いを行いましたので、ご報告いたします。「利用者評価」に関する話し合いについては、「放課後等デイサービス利用者評価」の集計結果をご参照ください。職員の自己評価が「はい」のみだった項目については、現在の状態に満足することなく、さらによりサービス提供のあり方を模索していきたいと考えています。

1. 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか



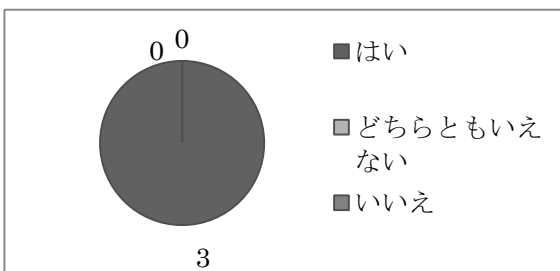
児童福祉法で定められている基準は満たしており、十分な広さを確保しています。「利用者評価」でも全員の方から「はい」と回答いただきました。

2. 職員の配置数は適切であるか



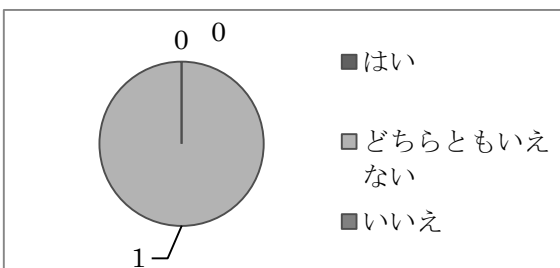
児童福祉法に定められている職員数は満たしていますが、「どちらともいえない」「はいえ」の評価となりました。常勤職員が一人、体調不良で退職し、加配分の職員がいない状態だったことで、利用者の皆様にご不便をおかけしたかもしれないという思いがありました。「利用者評価」では、ほとんどの方に「はい」とご回答いただきました。今後は加配職員が入る予定です。

3. 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか



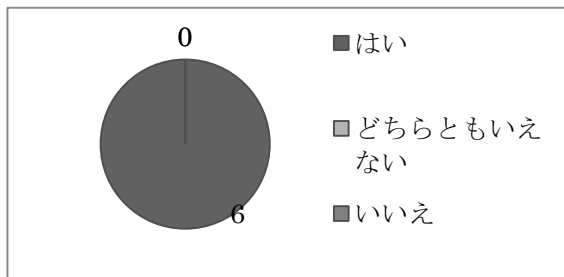
建物の構造はバリアフリーになっており、職員は全員「はい」と回答していますが、「利用者アンケート」では、お二人の方から「どちらでもない」とのご回答をいただいております。どんな部分で適切な配慮が足りないかを今後検討することになりました。

4. 業務改善を進めるための、PDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか



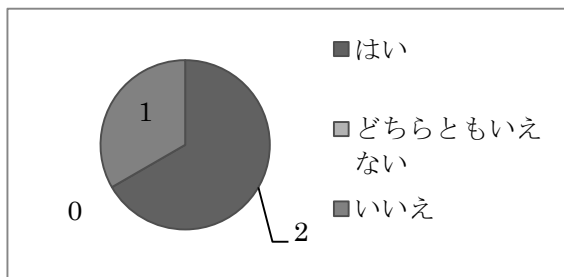
全員、「どちらともいえない」でした。話し合う中で PDCA サイクルの D (実行) と C (振り返り) は習慣づいてきましたが、A (評価) と P (計画) については、うまくできていないという意見も出ました。朝の打ち合わせを意識的に P (計画) の時間ととらえ、翌日にその振り返りをするすることで、PDCA サイクルを一人一人の中に根付かせることができるかもしれないと話し合いました。

5. 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか



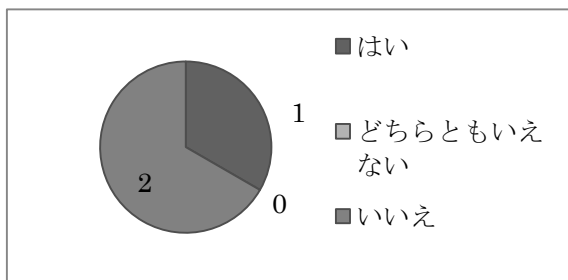
ワンダートンネルでは、一昨年度より保護者向け評価を行い、いただいた結果を職員間で共有しています。職員の中にも、保護者の皆様のご意向を業務に反映させる姿勢が根付いてきているようです。

6. この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか



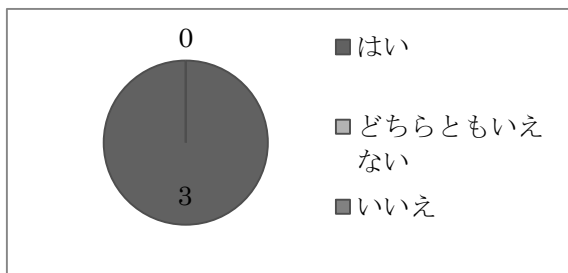
ワンダーポケットは今年5月の開所なので、過去には自己評価を行っていません。ワンダートンネルの自己評価は一昨年度よりHPに公開していますが、それを知らない職員が多く、放課後等デイサービスガイドラインについて、また、そこに則った事業所の取り組みについて職員間で共有しました。

7. 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか



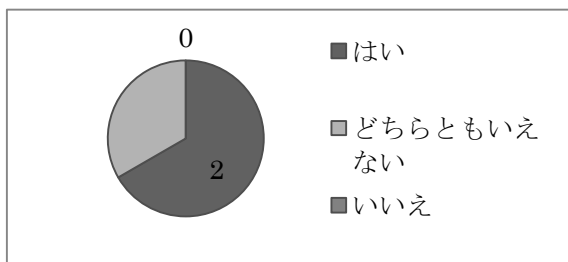
ワンダーポケットでは予算の関係で、まだ第三者評価は行っていません。そのことをきちんと意識し、利用者評価などの結果をきちんと受け止め、少数であっても改善に向けたご意見を今後の業務にきちんと生かしていくべきことを、職員間で共有したいと思います。

8. 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか



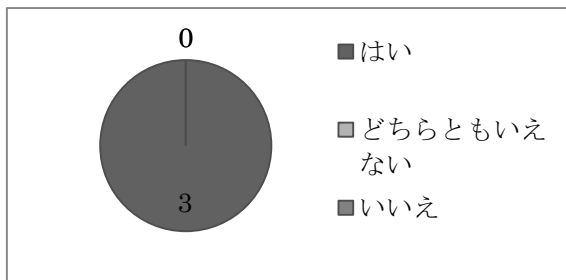
ワンダーポケットの職員は、職場内のケース会議、外部の精神科医によるスーパービジョン、学会等職場内外の研修を積極的に受けるようにしています。今後も、継続して行ってきたいと思います。

9. アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか



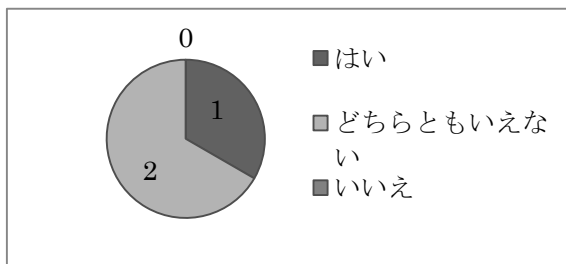
ワンダーポケットは開所から半年だったため、お子さんや保護者の方のニーズを十分に把握できていないと感じている職員がいました。今後、よりしっかりとニーズの把握とアセスメントを行って行きたいと話しました。

10. 子どもの適応行動の状況をはかるために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか



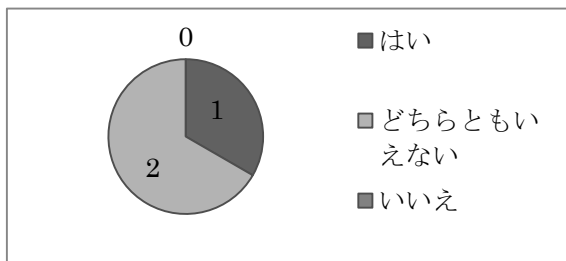
相模原市で作成しているマップで概要を把握し、現在のお子さんの状態を把握できるよう必要な心理検査、感覚プロフィール、読み書き評価、適応行動尺度などを随時行っています。ワンダーポケットには、作業療法士・言語聴覚士はいませんので、法人内のワンダートンネルの職員の協力で行っています。

11. 活動プログラムの立案をチームで行っているか



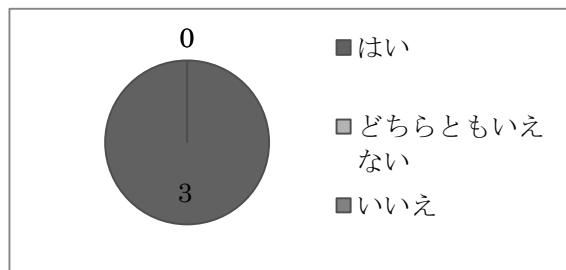
上述の通り、まだ、事業所としてのチームワークが円滑ではない面があり、今後の課題であると話し合いました。

12. 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか



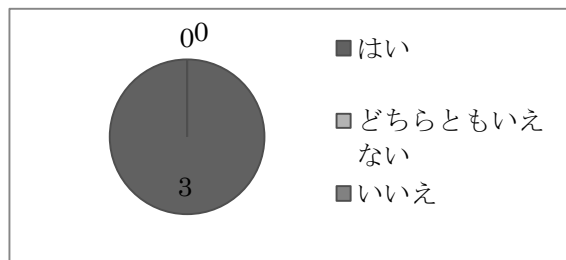
上述の通り、まだ、活動プログラムの幅が狭く、今後の課題であると話し合いました。

13. 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか



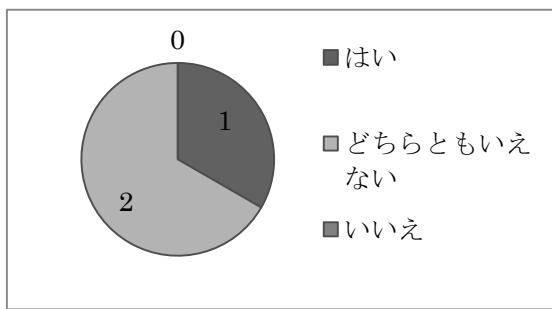
夏休みにはバザーを行い、子ども達が店員などを経験できる機会を作るなどの工夫を行いました。しかし、事業所自体の未熟さがあることを忘れず、今後も工夫を重ねていくことが大切と話し合いました。

14. 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか



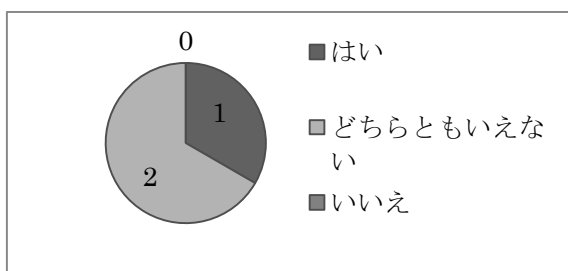
現在ワンダーポケットをご利用のお子さん達の多くがグループ療育と個別療育を併用しています。ご利用人数が少ないため、お子さん一人ひとりの状況に合わせてプログラムを組める状況です。

15. 支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか



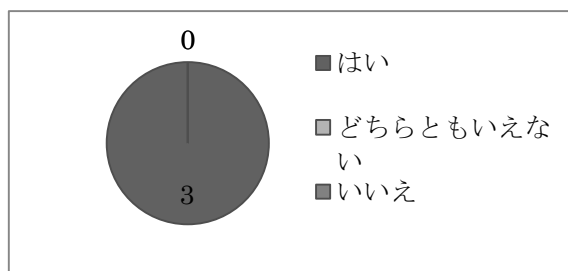
職員の出張や出勤時間の違いなどから十分な打ち合わせができていない状況がありました。どのように打ち合わせの時間を作っていくか話し合い、職員の出勤予定をクラウドタイプの共通カレンダーに必ず記入し、必要な打ち合わせを行うことを話し合いました。

16. 支援終了後には、職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行ない、気づいた点等を共有しているか



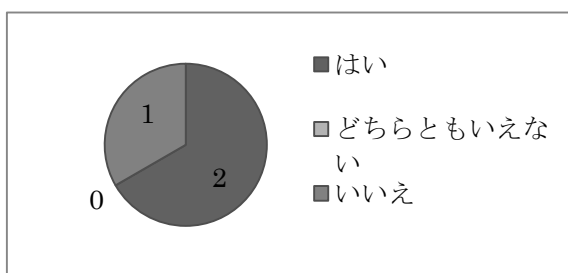
上述の通りです。

17. 日々の支援に関して正しく記録を取ることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか



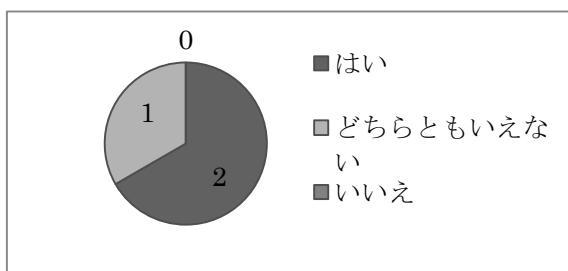
記録を取ることはできていますが、記録を支援の検証・改善につなげることは難しいという率直な意見がありました。ケース会議で詳細に検討を行なっていますので、その中で記録の取り方や活かし方の工夫を学んで行けるとよいと考えています。

18. 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか



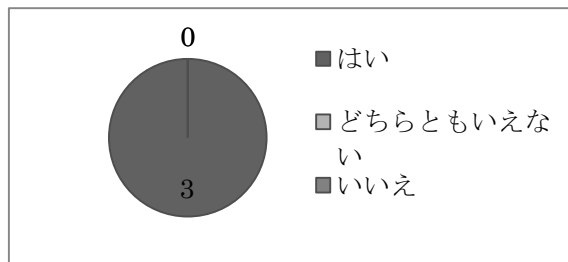
現在、モニタリングがきちんと行われていない状況があります。

19. ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行なっているか



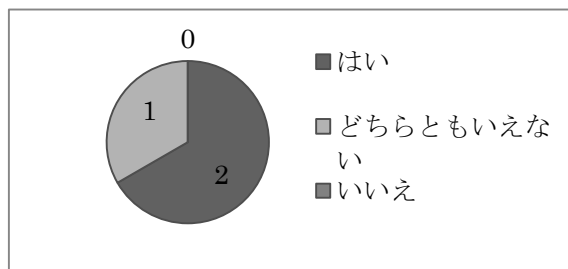
お子さん一人一人のニーズに基づいて個別支援を行なっていますので、ニーズが特定の深刻なものである場合、基本活動を複数組み合わせていない場合が多いです。ガイドラインの原則を確認しつつ、一律に基本活動を組み合わせるのではなく、ニーズに基づいて一人ひとりに合わせたプログラムを立てられると良いのではないかと話し合いました。

20. 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしいものが参画しているか



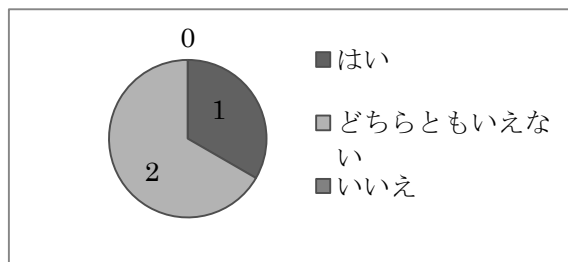
事業所全体の状況を検討する場合には児童発達支援管理責任者が出席し、具体的なお子さんの姿を検討する場合には担当が出席するようにしています。

21. 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行なっているか



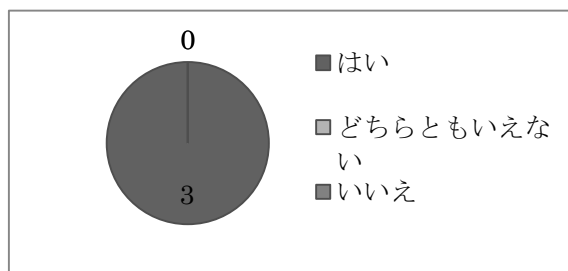
ワンダーポケットでは送迎支援を行っていないため、学校との上記のような情報共有や連絡調整は行なっていません。

22. 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか



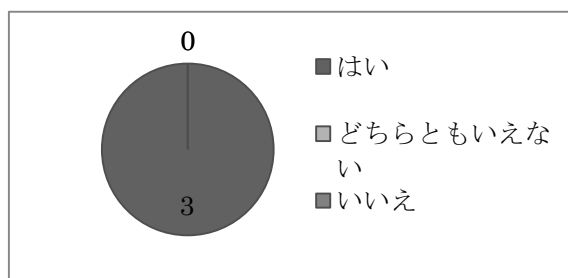
医療的ケアが必要なお子さんからのご利用希望がないため、現在は行なっていません。今後に向けて、連絡体制を整えることを検討していきたいと思います。

23. 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に務めているか



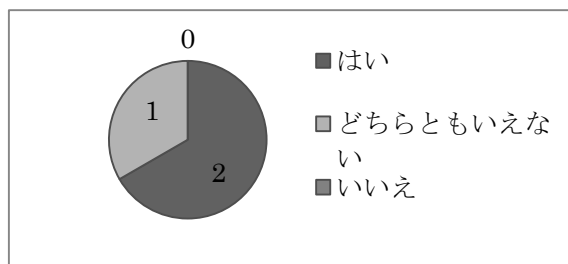
ワンダーポケットは中学生以上を対象としているため、就学前の関係期間と情報共有を行うことはありません。ワンダートンネルからの継続利用のお子さんが多く、ワンダートンネルとの情報共有に努めています。職員には上記のような情報共有を行っていないという自覚がなかったことを話し合い、確認しました。

24. 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか



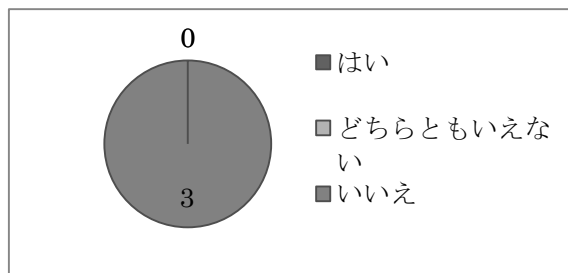
ワンダーポケットはまだ1年目を終えていませんので、放課後等デイサービスから卒業する方がいません。が、卒業見込みの方と就労移行支援事業所に体験に行くなどの取り組みを行っています。

25. 児童発達支援センターや発達障害者支援センターの専門機関と連携し、助言や研修を受けているか



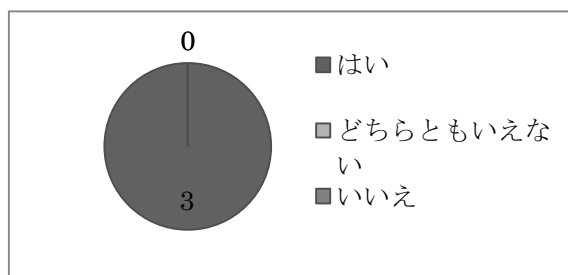
緑区の児童発達支援センターは平成 29 年に開設されたため、まだ連携しているケースが多くありません。従前から行っている緑区放課後等デイサービス連絡会で情報共有を行なっています。発達障害者支援センターの研修情報は職員に回覧し、希望する職員は参加しています。発達障害者支援ネットワーク会議に理事長または所長が参加しています。

26. 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子供と活動する機会があるか



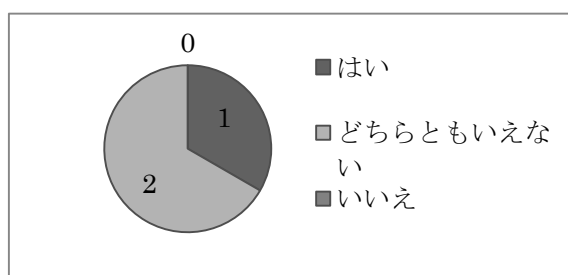
個別療育を行なっているため、上記のような活動を行う機会はありません。ワンダーポケットでは通常級在籍のお子さんが半数に上る現状や保護者の皆様からも一律に交流することを希望しないというご意見があることを考慮して、どのような形で共に生きる社会の実現を目指していくか検討したいと思います。

27. (地域自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか



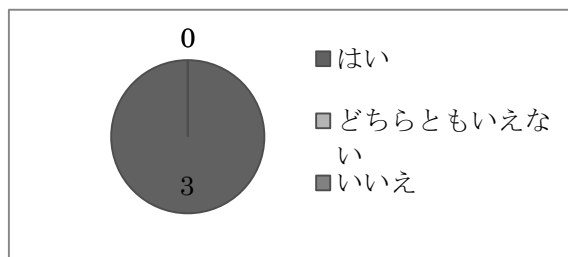
法人内の相談支援事業所が自立支援協議会の相談支援部に必ず参加し、理事長が自立支援協議会の委員を勤めています。今後は、職員会議で自立支援協議会についての情報共有が必要と話し合いました。

28. 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか



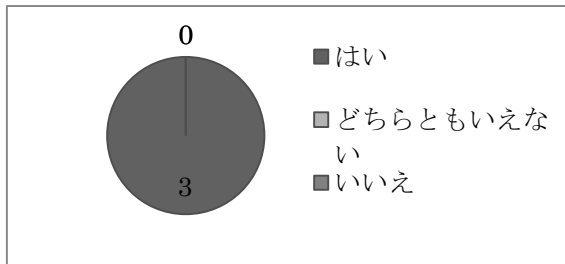
お子さんが単独で通所するケースが多いため、保護者の方とお話しする機会を持つことが少ないと感じる職員が多かったです。今後の課題ととらえて、保護者会の開催など工夫していきたいと話し合いました。

29. 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレントトレーニング等の支援を行なっているか



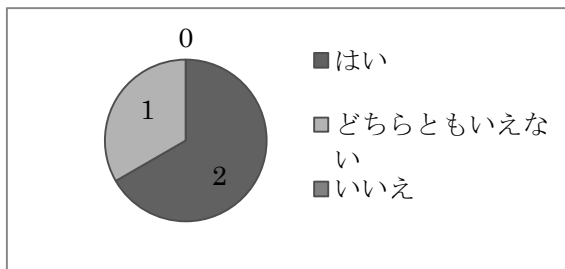
ワンダーポケットではまだ、このような支援を行なっていませんが、法人内のワンダートンネルで行なっていた経緯があったためか、全ての「はい」と答えていました。改めて、自事業所の現状をきちんと認識することの大切さを話し合いました。

30. 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行なっているか



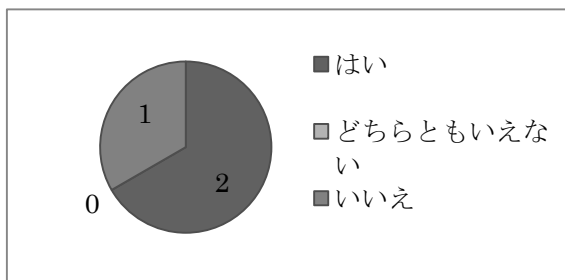
最初の契約の際に行うようにしております。「利用者評価」でも、全員の方から「はい」とご回答いただきました。

31. 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行なっているか



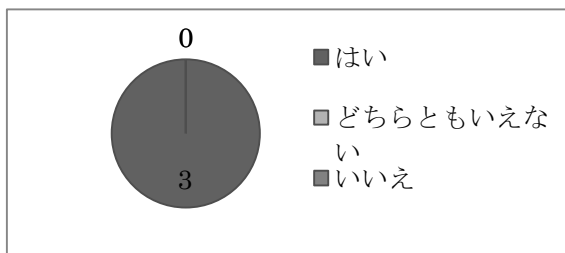
「利用者評価」で「どちらともいえない」と回答した方が多く、職員の意識と隔たりがあります。現状の支援を謙虚に振り返り、できていないことをできていないと認識することの大切さを確認しました。

32. 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか



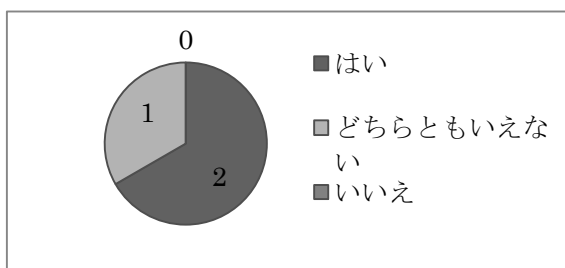
父母の会はありません。グループによっては保護者会を行なっていますが、個別療育のみの方は保護者会を希望されない方もいらっしゃるため、現在は個別の対応を行っています。

33. 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか



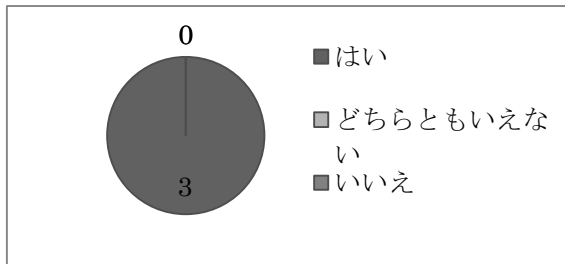
「利用者評価」では、「どちらともいえない」と回答した方が3分の1に上り、職員の意識との隔たりが見られました。苦情対応の体制の周知が十分でないことを認識し、周知の仕方を話し合うことを確認しました。

34. 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に発信しているか



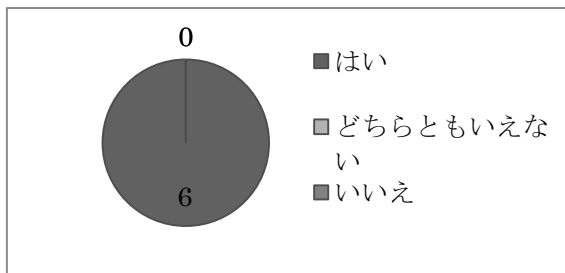
月1回代理受領通知書の発行と併せてワンダーポケット通信を発行していますが、「利用者評価」では「どちらとも言えない」が23%ありました。発行していることに満足せず、内容の充実などを検討したいと話しました。

35. 個人情報に十分注意しているか



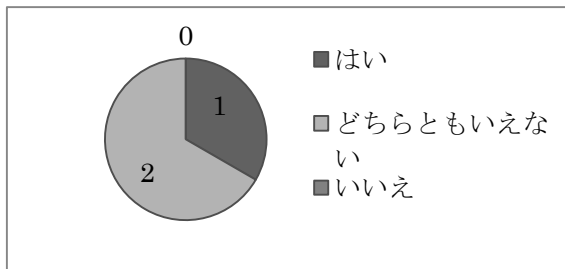
個人情報には十分注意しています。しかし、パソコンやクラウドに保存されている個人情報は外部からの侵入に対して万全ではないこと、同じ法人内の相談支援事業所（こども相談支援リボン）との情報共有が利用者の方や保護者の方の同意のもとで行われているか、など、常に意識を持ち続けたいと思います。

36. 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか



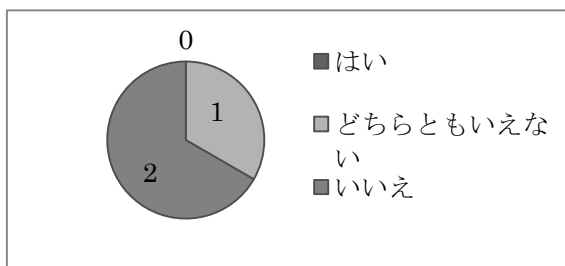
お子さんとの意思疎通については、視覚的支援などを用いてお子さんが意思を伝えやすい環境を整備するよう努力しています。子どもは社会のルールを覚える必要があることから、お子さんの意思を十分受け止めつつ、自律を促す為の工夫は今後さらに必要と考えています。「利用者評価」で保護者の方との意思疎通についても高い評価を得ていますが、これに慢心せず努力を続けていきたいと話し合いました。

37. 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか



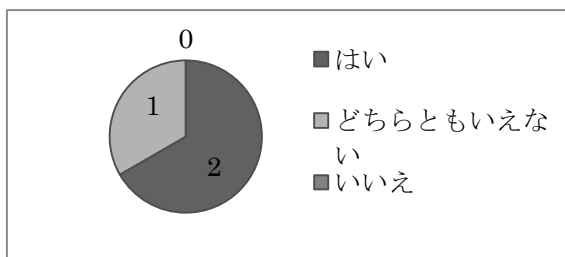
現在はこのような機会は多くありません。バザーなどの機会を通して、法人全体で今後も取り組んでいきたいと話し合いました。

38. 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか



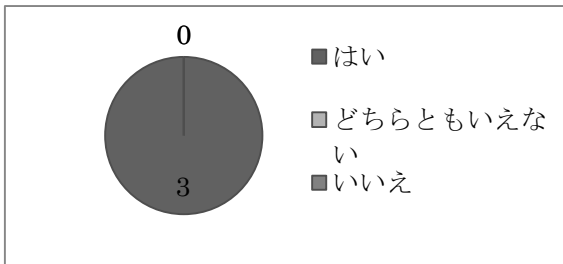
マニュアルの整備が遅れているという認識がありました。マニュアルの整備を早急行い、周知することを確認しました。

39. 非常災害の発生に備え、定期的に非難、救出その他必要な訓練を行なっているか



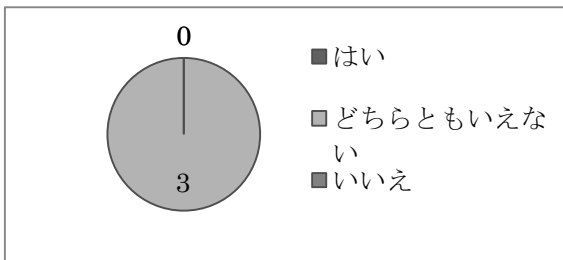
月1回の事務日に火災訓練、地震訓練、不審者訓練、衛生訓練を行なっています。お子さんは個別療育がメインなので、お子さんと一緒に訓練は今のところ行なっていません。

40. 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか



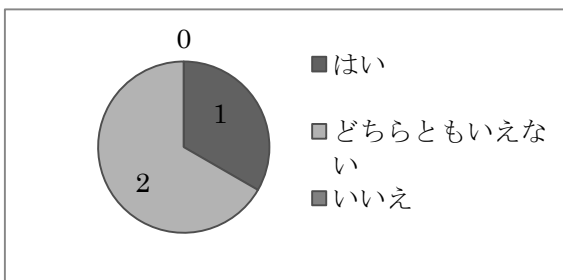
年1回法人全体でDVDなどを使った研修を行なっています。また、3年目以上の職員は県の研修を受けることを業務の一環としています。また、お子さん達が「通所が楽しみ」と思える場であることが、虐待防止の第一歩と考え、朝礼等でお子さんの様子を職員間で共有しています。毎日の取り組みの一つひとつが虐待防止につながることを職員間で確認しました。

41. どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか



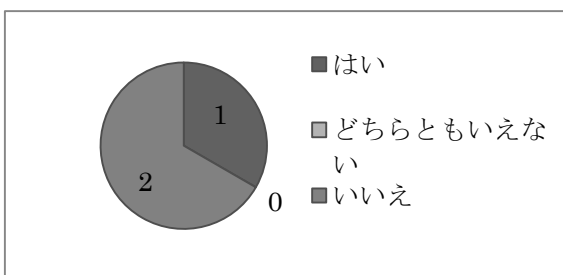
お子さんの意思を十分にき、環境を整えた上で療育を行うことを重点的に行なってきましたので、身体拘束を行うような状況がこれまでありませんでした。これまでの取り組みが身体拘束を防いでいること、しかし、身体拘束に至る可能性は常にありうることを念頭において、今後の対応を検討したという結論になりました。

42. 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか



指示書が必要なお子さんがこれまで通所していなかったため、対応しておりません。今後、このような場合にどのような体制で対応するか検討することになりました。

43. ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか



ヒヤリハットを共有する習慣がまだできておらず、今後の課題であることを確認しました。